

漫画ばかり読んで困るという子どもはいなくなる

おかあさんがたの悩みのひとつに、

「うちの子どもは、漫画ばかり読んで、親が読ませたいと思う本は、すこしも読まない」ということがあります。しかし、これは、いまの教育ではあたりまえのことです。なぜかといいますと、漢字がよく読めないものですから、漢字をたくさん使って書いてある、「ためになる本」は、とても読めないのです。読めない本は読みたくないのがあたりまえです。絵本や漫画が喜ばれるのは、つまり、その程度の能力の子どもだけということなのです。

石井方式で育った子どもたちは、漢字をたくさん使って書いてある本に、喜んで飛びついていきます。そういう本のほうが、この子どもたちにはおもしろいのです。一年生だって、

「かなばかりで書いてある本なんか、読みにくくて……」

といっています。ほとんど全部の子どもがそういっているのです。これがほんとうです。かながいいなんていうのは、正常ではありません。

「漫画ばかり読んで困る」というような子どもにしなくなったら、どう

しても、石井方式を実行しなければなりません。入学までに一年あったら、百から二百ぐらいの漢字を覚えることはやさしいことです。

これができたら、やさしい童話の本を読ませてください。かなの上から紙をはって、覚えた漢字に直すのです。また、これに、新しい漢字をはるのもよいことです。

新しい漢字を、教えないでも読ませられる方法があります。たとえば、「耳」「目」を覚えている子に、つぎの文を読ませてください。

うさぎの耳は 長いね。

うさぎの目は 赤いね。

すると、「長い」「赤い」という字を知らない子でも、きっと正しく読むでしょう。このように文の中では、前後の関係で、知らない漢字があっても、けっこう正しく読んでいけるものだということがわかります。

また、こうして知らない字を、前後の関係から判断して読むということに、子どもたちは、なぞなぞ遊びをするような楽しみを感じているようです。しかも、自分の頭で判断して読んだ漢字というものは、印象に強く訴えるものですから、よく覚えられて、一石二鳥なのです。